PART3 科学革命と産業革命

Chapter1　科学革命と啓蒙思想

目標
科学革命と啓蒙思想の特徴を知ろう。
西欧の「生活革命」が，市民社会に与えた影響を理解しよう。

1　科学革命

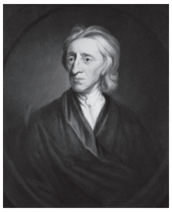
① 17世紀のヨーロッパ＝〔　　　　　〕**革命**の時代
近代的合理主義の思想や学問が本格的に確立され，自然界の研究が進歩。

②自然科学
ガリレイ（伊），ケプラー（独），〔　　　　　　　　　　〕**（英）**ら。

ニュートン

③近代哲学
A　フランシス＝ベーコン（英）のイギリス経験論→帰納法による
B　デカルト（仏）の大陸合理論→演繹法による
C　カント（独）のドイツ観念論→のちヘーゲルが弁証法により完成

④自然法思想
A　**グロティウス（蘭）**『海洋自由論』『**戦争と平和の法**』→自然法の父・国際法の祖
B　〔　　　　　　　　〕**（英）『リヴァイアサン』→社会契約説**
C　〔　　　　　　〕**（英）『統治二論〔市民政府二論〕』→社会契約説**



ロック

2　啓蒙思想

①〔　　　　〕**思想**（18世紀）
科学革命後，合理的な知を重んじて社会の偏見，特にフランスのアンシャン＝レジーム〔旧体制〕を「暗闇」として批判。
→プロイセン・オーストリア・ロシアで**啓蒙専制主義**を生む。
A　〔　　　　　　　　　　　　　　〕**（仏）『法の精神』**→三権分立
B　**ヴォルテール（仏）『哲学書簡』**→カトリック教会を批判し寛容の精神を説く
C　〔　　　　　　〕**（仏）**→『人間不平等起源論』『**社会契約論**』**→社会契約説**
　他の啓蒙思想家と違い文明化の害悪を指摘→「自然に帰れ」
D　ディドロとダランベール（仏）→『百科全書』の編纂を行った**百科全書派**

②経済思想の発達

A　**ケネー**とテュルゴー（**仏**）の**重農主義**

国家規制の強い重商主義を批判し自由放任を主張

B　〔　　　　　　　　　　　　　〕（**英**）の**古典派経済学**→自由主義的

『**諸国民の富〔国富論〕**』で分業と市場経済の基礎理論を展開

3　成長する市民

①「〔　　　　　〕**革命**」→市民層も貴族層を模倣

タバコ・**コーヒー**・**紅茶**・**砂糖**などの消費

②啓蒙思想の普及場所→文学やジャーナリズムの発展を支え**世論**を形成

ロンドンの〔　　　　　　　　〕**ハウス**やクラブ，パリの**カフェ**など。

※貴族の館で開かれる**サロン**。

③ 18世紀前半のイギリス小説

デフォー『ロビンソン＝クルーソー』，スウィフト『ガリバー旅行記』など。

※文学や政治論を掲載する新聞・雑誌も多数刊行された。

ロンドンのコーヒーハウス

サロン

まとめ

合理的な知を重んじて，旧来の社会の偏見や体制を批判した。

「生活革命」により，文芸やジャーナリズムが発展し，世論が形成された。

Chapter2　産業革命

目標
資本主義とはどのようなしくみだろう？
資本主義の矛盾が表面化してきた時に生まれた思想とは？

1　イギリスで産業革命が起こった理由

①イギリスの広大な市場→ 17世紀にオランダ，18世紀にフランスとの競争に勝利

資本の蓄積があり，豊かな国内市場と広大な海外市場を有するイギリスで，**18世紀後半**に世界初の〔　　　　〕**革命**が起こった。

※ 19 世紀前半，ナポレオンの没落に伴いイギリスが機械輸出を解禁すると，フランス・**ベルギー**・アメリカ・ドイツの順に波及し，ロシアや日本は 19世紀末まで遅れた。

②イギリスの**農業革命**と労働者の創出

18 世紀前半からの第 2 次**囲い込み〔エンクロージャー〕**で得た大規模な農地を，先進技術や農法を持つ農業資本家に貸し出す（＝**農業革命**）。

※土地を失った農民が地方の農業労働者や都市の工場労働者となる。

③イギリスの豊富な資源と**技術革新**→「**世界**の〔　　　　〕」に

石炭・鉄などの資源に恵まれ，17世紀以来の科学革命と並行して技術も進歩していた。

※石炭の利用は「**エネルギー革命**」とも呼ばれる。

2　綿工業における産業革命

①産業革命＝**工場制機械工業〔機械製大工業〕化**

②**綿工業**分野・マンチェスターを中心に技術革新が始まる

従来，イギリスの主要産業は毛織物であったが，インドから綿布〔キャラコ〕や原料の綿花が大量に流入。のち機械化により，イギリスが綿糸や綿布を大量生産するようになった。

1733年　**ジョン＝ケイ**が〔　　　　　〕を発明→綿織物業の急拡大により綿糸が不足

1769年　〔　　　　　〕が動力源として〔　　　　　　〕を改良

※ 18 世紀初め，ニューコメンが蒸気力によるポンプを発明していた。

1779年　クロンプトンが**ミュール紡績機**を発明→紡績業が発達し綿糸の大量生産が始まる

1785年　カートライトが**力織機**を発明→再び綿織物業が急拡大

※綿工業の躍進により機械工業・鉄鋼業・石炭業なども発展。

3　交通革命

①産業革命に伴う交通機関改良の必要性→**交通革命**

大量の原料・燃料・製品を，できるだけ早く安く輸送する必要が生まれた。

②**フルトン（米）**による〔　　　　　　　〕の試作（1807年）

18 世紀後半には国内の交通網として**運河**が整備され，また，海外へも航路が広がった。

③〔　　　　　　　　　　　　　　　　　〕**（英）**による**蒸気機関車**の製作（1814年）

1825年に実用化され，30年にはマンチェスター・リヴァプール間の旅客**鉄道**が開通。

4　産業革命による社会の変化

①イギリスは農業社会から**産業社会**へ

②機械製工場の出現と家内工業・手工業の没落

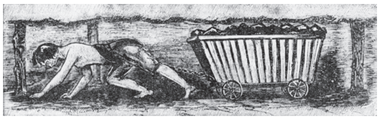
労働者が機械を打ちこわす**ラダイト運動**も，19世紀前半に起こる。

ロコモーション号

③**産業資本家**の台頭と**賃金労働者**の増加により〔　　　　　〕**主義**体制が確立

④都市への人口集中と都市問題

首都のロンドン，工業都市のマンチェスター・バーミンガム，商業都市のリヴァプールなど。労働者の集まる街区には不衛生な〔　　　　　　　〕が形成される。



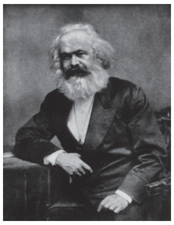
炭鉱で働く子ども

⑤労働者の厳しい環境→のち**工場法**が制定される

女性や子どもまでが工場や鉱山で働かされる。

⑥格差が広がり**労働問題・社会問題**が発生

『**共産党宣言**』を著した〔　　　　　　　　　〕・**エンゲルス（独）**らの〔　　　　　〕**主義**など新しい思想の登場。



マルクス

まとめ　生産手段を有している資本家が，有していない労働者を使用して生産する制度を資本主義制度という。
資本主義の矛盾を革命によって解決しようとする社会主義思想が現れた。

第 2 講　PART3　確認問題

1 万有引力の法則を唱えた科学者はだれか。

① ケプラー　② ボイル
③ ガリレイ　④ ニュートン

2 『戦争と平和の法』を著し，「国際法の祖」と呼ばれた人物はだれか。

① ホッブズ　② グロティウス
③ カント　④ ヴォルテール

3 社会契約説を唱えたホッブズの著書は何か。

① 『リヴァイアサン』　② 『統治二論〔市民政府二論〕』
③ 『法の精神』　④ 『社会契約論』

4 カトリック教会を批判し，『哲学書簡』を著した人物はだれか。

① ヴォルテール　② グロティウス
③ モンテスキュー　④ デカルト

5 『諸国民の富〔国富論〕』を著し，古典派経済学を確立した人物はだれか。

① ケネー　② ダランベール
③ テュルゴー　④ アダム＝スミス

6 世界で初めて産業革命を開始した国はどこか。

① アメリカ　② フランス
③ ドイツ　④ イギリス

7 クロンプトンが発明したのは何か。

① 力織機　② 飛び杼
③ ミュール紡績機　④ 蒸気機関

8 蒸気機関車を製作した人物はだれか。

① カートライト　② フルトン
③ ジョン＝ケイ　④ スティーヴンソン

9 イギリスで商業都市として発展した都市はどこか。

① ロンドン　② リヴァプール
③ バーミンガム　④ マンチェスター

10 『共産党宣言』を著した社会主義者はだれか。

① マルクス　② ホッブズ
③ アダム＝スミス　④ ヴォルテール

第 2 講　PART3　確認問題　解答

1 解答：④　ニュートンは，近代物理学の基礎を打ちたてた。

①：惑星運行の法則を唱えた。
②：気体の圧力と体積の関係を解明した。
③：物体落下の法則を唱えた。

2 解答：②　グロティウスは，自然法思想を国家間の関係に適用し，「国際法の祖」と呼ばれた。

①：社会契約説を唱えた。
③：ドイツ観念論を確立した。
④：啓蒙思想家で，カトリック教会を批判した。

3 解答：①　ホッブズは，自然状態を「万人の万人に対する闘い」ととらえて国家主権の絶対性を結論づけた。

②：社会契約説を唱えたロックの著書。
③：三権分立を主張したモンテスキューの著書。
④：社会契約説を唱えたルソーの著書。

4 解答：①　ヴォルテールは『哲学書簡』でイギリスを賛美した。

②：『戦争と平和の法』を著し，「国際法の祖」と呼ばれた。
③：『法の精神』を著し，三権分立を説いた。
④：演繹法による大陸合理論を確立した。

5 解答：④

アダム＝スミスは『諸国民の富〔国富論〕』で，分業と市場経済の基礎理論を展開した。

①：国家規制の強い重商主義を批判し，自由放任に基づく重農主義を唱えた。
②：百科全書派の一人で，ディドロとともに『百科全書』の編纂を行った。
③：国家規制の強い重商主義を批判し，自由放任に基づく重農主義を唱えた。

6 解答：④

産業革命はイギリスから始まり，フランス・ベルギー・アメリカ・ドイツの順に波及し，ロシアや日本は 19 世紀末まで遅れた。

①：イギリス・フランス・ベルギーに次いで開始した。
②：イギリスに次いで開始した。
③：イギリス・ベルギー・フランス・アメリカに次いで開始した。

7 解答：③

ミュール紡績機の発明により，紡績業が発達し綿糸の大量生産が始まった。

①：カートライトが発明した。
②：ジョン＝ケイが発明した。
④：ワットが動力源として改良した。

8 解答：④

スティーヴンソンによって製作された蒸気機関車はのちに実用化され，1830 年にはマンチェスター・リヴァプール間の旅客鉄道が開通した。

①：力織機を発明した。
②：蒸気船を試作した。
③：飛び杼を発明した。

9 解答：②　首都のロンドン，工業都市のマンチェスター・バーミンガム，商業都市のリヴァプールには人口が集中した。

①：イギリスの首都。
③：工業都市として発展した。
④：工業都市として発展した。

10 解答：①　マルクスは友人のエンゲルスと協力して『共産党宣言』を著した。

②：『リヴァイアサン』を著し，社会契約説を唱えた。
③：『諸国民の富〔国富論〕』を著し，古典派経済学を確立した。
④：『哲学書簡』を著し，イギリスを賛美した。